

北海道農業・農村の概要

平成21年7月 北海道農政部

1 本道農業の地位・特徴

- ◇ 北海道においては、全国の約4分の1の耕地面積を生かし、稲作、畑作、酪農などの土地利用型農業を中心とした生産性の高い農業を展開
- ◇ 平成19年の農業産出額は、9,809億円で全国の約12%を占める
(※19年より産出額の調査方法が変更)
- ◇ 本道農家の1戸当たり耕地面積は、都府県の約14倍に当たる20.1ha、販売農家に占める主業農家の割合は、都府県の19%に対し74%と、大規模で専門的な経営を展開
- ◇ 本道の農業・農村は、食料の安定供給といった基本的役割に加え、国土の保全などの多面的な機能を有しており、道が9年度に行った調査によると、農業産出額を大きく上回る1兆2,581億円の評価
- ◇ 平成19年の北海道の食料自給率は198%(概算値)であるとともに、国産供給熱量の約2割を供給するなど、我が国における食料の安定供給に重要な役割を發揮

2 本道農業・農村の動向

- ◇ 本道農業・農村の農家戸数は、年々減少しており、17年の総農家数は5万9,108戸
また、農業労働力の高齢化も進行しているが、都府県に比べると、若い農業者の割合が高い状況
- ◇ 20年の農外からの新規参入者は66人で、前年に比べ22名減少。農家子弟を含めた新規就農者の総数は、近年、概ね700人前後で推移していたが、ここ2年は連続して減少
- ◇ 認定農業者は、5年の制度創設以来、着実に増加しており、認定農業者を施策対象とする水田・畑作経営所得安定対策(品目横断的経営安定)の導入等もあり、21年3月末現在、3万2,837経営体
- ◇ 農業生産法人は、毎年100法人程度増加しており、21年1月1日現在、2,559法人
- ◇ 耕地面積は、2年の120万9,000haをピークに減少しており、20年は116万2,000ha
- ◇ 担い手への農地の利用集積は、年々進展しており、20年3月の集積率は84.2%

■ 北海道農業の全国シェア

区分	単位	北海道(A)	全国(B)	A/B(%)	年次
耕地面積	千ha	1,162	4,628	25.1	20年
総農家戸数	千戸	59	2,848	2.1	17年
農家人口	千人	183	7,295	2.5	20年
農業就業人口	千人	118	2,986	4.0	20年
農業産出額	億円	9,809	84,449	11.6	19年
国産供給熱量	kcal/人・日	221	1,016	21.8	19年

資料：農林水産省「耕地面積調査」、「農業センサス」ほか

■ 本道と都府県の農家の比較

区分	単位	北海道(A)	都府県(B)	A/B(倍)	年次
1戸当たり経営耕地面積	ha	20.1	1.4	14.6	20年
1戸当たり乳用牛飼養頭数	頭	101.3	43.8	2.3	20年
基幹的農業従事者65歳未満割合	%	69.7	39.0	1.8	20年
主業農家数/販売農家数	%	73.9	19.4	3.8	20年
農業依存度	%	86.2	35.3	2.4	19年

資料：農林水産省「耕地面積調査」、「畜産基本調査」ほか

■ 北海道農業・農村の多面的機能の評価額 (単位：億円)

区分	評価額	内 訳
国土保全機能	7,405	洪水防止6,143、土壌浸食防止32 水資源かん養543、大気浄化687
アメニティ機能	4,149	景観保全2,464、保健休養1,044 生態系保全641
教育文化機能	1,027	自然教育1,017、農業実務研修10
計	12,581	

資料：北海道農政部「農業・農村の多面的機能の評価調査」(10年3月)

■ 農家戸数、農業就業人口等の推移 (単位：戸、人、%)

区分	H2	H7	H12	H16	H17
農家戸数	95,437	80,987	69,841	65,590	59,108
農家人口	376,565	311,711	261,160	241,510	211,929
農業就業人口	208,965	173,530	152,387	144,500	131,491
65歳以上率	20.8	25.2	31.2	32.3	34.1

資料：農林水産省「農業センサス」ほか

注：農業就業人口、農家人口は販売農家の数値

■ 新規就農者数の推移 (単位：人)

区分	H7	H12	H16	H17	H18	H19	H20
新規学卒就農者	417	343	391	331	323	298	276
Uターン就農者	53	192	266	267	303	264	257
新規参入者	31	64	71	55	69	88	66
計	501	599	728	653	695	650	599

資料：北海道農政部調べ

■ 認定農業者数、農業生産法人数の推移 (単位：人、%)

区分	H7	H12	H18	H19	H20	H21
認定農業者	3,659	13,593	29,763	32,333	32,735	32,837
主業農家割合	6.7	30.1	—	—	—	—
農業生産法人	1,559	1,794	2,289	2,423	2,495	2,559

資料：北海道農政部調べ

■ 耕地面積等の推移 (単位：千ha、%)

区分	H7	H12	H17	H18	H19	H20
耕地面積	1,201	1,185	1,169	1,166	1,163	1,162
田	240	235	228	227	226	226
普通畑	418	414	412	412	414	415
牧草地	540	532	525	523	520	518
担い手の利権継承	48.5	58.6	79.5	80.8	84.2	—

資料：農林水産省「耕地面積調査」、北海道農政部調べ

注：担い手は認定農業者及び市町村基本構想水準到達者

◇ 本道においては、地域ごとにその特性を活かした農業生産を展開。農業産出額では、麦類、豆類、いも類、工芸農作物、乳用牛の全国に占める割合が高い

◇ 品目別の生産量（19年）では、小麦、馬鈴しょ、大豆、小豆、いんげん、そば、てん菜、たまねぎ、生乳など多くの品目が全国一

◇ クリーン農業の推進成果であるYES!clean登録集団数は21年産で53作物、114市町村で延べ357集団と、地域的な広がりも進展

◇ 販売農家1戸当たりの農業所得は、19年に494万円と減少。経営部門別では、稲作経営が畑作、酪農経営に比べ低迷

◇ 近年、道内各地において、地元のこだわりの農産物を地域内で加工し、農産物の付加価値を向上させる地域内発型の取組が増加

■ 農家経済の動向

(単位：千円)

区分	H7	H12	H16	H17	H18	H19
農業所得	4,236	3,204	5,441	5,150	5,094	4,936
総所得	8,393	7,695	7,041	6,551	6,457	6,327
農業所得率	31.1	23.2	30.2	28.3	27.8	26.1

資料：農林水産省「農業経営統計調査」

注：16年以降は、農業補助金や共済金等が農業所得に計上されている

■ 農業産出額の構成 (H19)

(単位：億円、%)

区分	北海道	構成比	全国	構成比	道/全	順位
農業産出額	9,809	100.0	84,449	100.0	11.6	1
耕種	4,823	49.2	57,616	68.2	8.4	1
米	1,092	11.1	18,058	21.4	6.0	2
麦類	447	4.6	765	0.9	58.4	1
雑穀類	30	0.3	87	0.1	34.5	1
豆類	282	2.9	686	0.8	41.1	1
いも類	559	5.7	1,954	2.3	28.6	1
野菜類	1,672	17.0	20,925	24.8	8.0	1
果実	81	0.8	7,557	8.9	1.1	30
花き	157	1.6	4,051	4.8	3.9	8
工芸農作物	486	5.0	2,615	3.1	18.6	1
畜産	4,986	50.8	26,231	31.1	19.0	1
肉用牛	645	6.6	5,559	6.6	11.6	2
乳用牛	3,325	33.9	7,391	8.8	45.0	1
豚	326	3.3	5,484	6.5	5.9	5
鶏	309	3.2	7,201	8.5	4.3	7

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

■ YES!clean登録集団の推移

区分	H12	H17	H18	H19	H20	H21
作物数	8	47	48	49	53	53
市町村数	8	104	114	111	113	114
延べ集団数	11	244	279	311	345	357
延べ生産者数	975	8,851	9,479	10,115	11,010	11,207

資料：北海道農政部調べ

■ 経営部門別の農業所得(所得率)

(単位：千円、%)

区分	水田作	畑作	酪農
18年	3,430 (33.0)	8,018 (32.7)	6,247 (13.8)
19年	3,601 (32.7)	8,129 (31.8)	6,053 (12.5)

資料：農林水産省「農業経営統計調査」

注：数値は、当該部門以外も含めた農業経営全体の所得

3 21年度における道農政の重点取組事項

<現状と課題>

- ・国際的な穀物価格の高騰
- ・低い国内の食料自給率
H19年概算 40%
→食料供給に対する国民の不安増大
- ・北海道の食料自給率
H18年概算 195%

→農産物の安定供給など本道農業が果たすべき役割の増大

- ・WTOやEPAといった国際農業交渉の進展の懸念
- ・肥料・燃油等の農業生産資材の価格高騰
- ・高齢化の進行・担い手不足や耕作放棄地の拡大懸念

→力強い農業体質の確立が急務

- ・事故米の不正流通や中国産加工食品の問題
- ・国産農産物に対する消費者のニーズの高まり

→消費者に信頼される安全・安心な食づくりが重要



食の安全・安心基本計画

- ・道民の健康の保護
- ・食の豊かさの回復
- ・世界の通用する食の北海道ブランドの創出

北海道農業が恵まれた土地資源等を最大限に活用しながら、道民をはじめ国民に信頼される安全・安心で高品質な農産物を安定的に供給することがこれまで以上に重要

第3期農業・農村振興推進計画

- ・農業・農村ビジョン21の将来像の実現
- ・北海道独自の生産努力目標の達成



北海道の食料供給力の向上に向けた取組を加速化

消費者と生産者が強い絆で結ばれた「食」づくり

- ・輸入小麦から道産小麦への麦チェン
- ・北限地帯のとうもろこし導入に挑むなど飼料自給率の向上
- ・畜産農家における高度な農場HACCPの導入
- ・道産加工食品の新たな表示など情報提供のあり方の検討
- ・北海道米の道内食率80%の確実な達成に向けた取組の展開
- ・和牛の優良繁殖雌牛群の育成や地域での一貫肥育体制づくり
- ・道産農産物の新たな海外市場開拓の推進
- ・地域資源を活かした地域内発型の個性豊かなブランドづくり
- ・安全で高品質な道産食品を認証する道独自の制度の普及・拡大

「環境」と調和した農業・農村の持続的発展

- ・環境負荷を低減する有機農業、クリーン農業の促進
- ・放牧適性に優れた牛の導入による自然循環型酪農の推進

多様な「担い手」の育成・確保と経営の体質強化

- ・担い手への農地の面的集積の促進
- ・農業系大学との連携による地域の担い手づくり
- ・耕作放棄地の解消・再生など優良農地の確保対策
- ・農村女性のビジネス力向上の支援

豊かな資源と創意工夫を活かした「地域」づくり

- ・農地・水等の適切な保管理と先進的営農活動の推進
- ・消費者と一体となった地域農業から派生する新たな産業の育成

国民から信頼される本道農業・農村の確立